

人権作文コンテスト 入賞作品

今年も市内の小・中学生の皆さんから、本コンテストに多数ご応募いただきました。その中から入賞されました3名の方の作品をご紹介します。



最優秀賞

『だからなんだ』

清和台中学校3年 井上咲良さん

「聞こえなごうか。」

私は、聴覚障がいを持っていきます。小学生の時から、私が聞こえないから大きな声で、先生がクラスの人に言ってくれています。それは、気にかけてくれているのだなとありがたかったです。しかし、正直私だけが特別扱いをされているみたいで、クラスの人たちの目を見るのが怖かったのもあり、学校へ行きたくない時もありました。私は「聞こえなごう」訳ではありません。あくまで「聞こえなごう」です。小学3年生位からは、補聴器を隠すようになりまし。障がいを持つ自分が恥ずかしくなりました。自分に自信が持てず、いつもマイナス思考でした。障がい者だから、何もできないのだと勝手に思っていました。それでも、私が変わることができたのはダンスです。「耳が聞こえないのに音楽に合わせて踊れるの。」「と思う人もたくさんいると思います。目が見えなかつたり、手がなかつたり、義足や車いすでも、自分ができるように工夫して楽しんでいきます。そこから、私をもっと自信を持てるようになったのは、テレビで活躍している方を見てかひひひ。



「聞こえなごうか。」とおきりめつたと思います。自分にできることを見つけてほしいなと願っています。

けれど、今なら「障がい者だからなんだ。」と思えるようになりました。聴覚障がいを持っていても、ダンスができる。音楽が聴ける。障がい者だからと何もできないわけではないと思います。できないと決めつけて、先取りされる人の気持ちも、健常者の方たちに理解してもらいたいなと願っています。

また、私は少しだけの手話でもつれいいます。手話は、意外と覚えやすく、簡単です。例えば、雨です。手を広げ、上から同時に2回おろします。これは、ザーザーと降る雨の様子を表しています。このように、仕組みが分かるのと、とても面白いです。私の友だちは「覚えて。」「と言いつらならのに、自ら「覚えて。」「と言いつつ、私と話をしようといわれまじ。障がい者と一緒に嫌ではないのかなと毎回思いますが、そんなこと気にせず気軽に話しかけてくれるのは、助かります。だから、近くに聴覚障がいを持つ子がいたら、手話を使い話しかけてみて下さい。きっと明るい子だと思います。

最後に、人には見えない病気を持つ人も、私みたいに障がいを感じていない人もいます。それに、無意識に自分がしたことが誰かに不自由を与えているかもしれない。

だから、もっと知識と理解を深めて、健常者も障がい者も嫌な思いをしなへ、過ごしてほしいと思います。

優秀賞

『いのちをいただく』を読んで

清和台南小学校4年 片山汰樹さん



ぼくは、「いのちをいただく」 みつちゃんがお肉になる日」という本を選びました。なぜかと言いつつ、表紙に大きく「いのちをいただく」と書いている、気がなつたからです。

このお話に出てくる坂本さんは、食肉センターで働いています。その日は、牛をお肉にする仕事をしていました。しかし、坂本さんは、その仕事がいやです。つとやめたいと思つていました。ある日、新しい牛がやってきました。みいちゃんという牛です。みいちゃんは、ある女の子に、よく大事にされています。しかし、牛をお肉に変えなごうとごはんが食べられなくなるので、仕方なくみいちゃんをお肉に変えに来ました。女の子は、みいちゃんに泣きながら「ごめんね。」と謝っていました。坂本さんは、それを見て悲しくなつて、この仕事をやめようと思つました。そして、みいちゃんがお肉に変わってから少したった日、あの女の子が来ました。女の子は、みいちゃんのお肉を食べて泣きながら、「おめでとう。」と言いました。そして、坂本さんは、もう少し仕事を続けようと思つたと言つた物語です。

ぼくは、これを読んで「いただきます。」「い」がさうです。「を、きちゃんと言おうと思つました。なぜかと言いつつ、ぼくが毎日食べているお肉や魚は、もとも生きていたからです。ぼくたちのために、いのちをくれたからです。ぼくが、お肉を食べているのは、そのお肉が豚や牛のおかげです。だから、これからは「いただきます。」「い」がさうです。「を、きちゃんと言おうと思つます。そして、この仕事をしている人は、さういと思つました。牛や豚など生きてくる動物を殺したりしなければいけなからです。また、この仕事をする人がいなければ、ぼくたちは、ごはんを食べられなくなりま。だから、いのちの仕事をしてくれる人、感謝しようと思つます。

この本を読んで、これからは「いただきます。」「い」がさうです。「を、きちゃんと言つたり、ごはんを残さず食べようと思つました。それと、ごはんをおいしく食べさせてくれるお母さんに、「おめでとう。」「い」がさうです。「いただきます。」「い」がさうです。



優秀賞

『ふんふんふんふん』のなか

多田小学校2年 藤澤 茉央さん



わたしは、この本はハートの形をして、胸にあると思つていました。「ふんふんふん」があるのふんふん。」「とこの本を読んでみたくなりました。この本には、女の子と男の子と動物たちが出てきます。いろいろな動物たちが、ふんふんふんふんがあるのふんふん。」「とこの本を読んでみたくなりました。

この本には、女の子と男の子と動物たちが出てきます。いろいろな動物たちが、ふんふんふんふんがあるのふんふん。」「とこの本を読んでみたくなりました。

考えてみたら、やっぱりわたしのころは、胸にあるのふんふん。」「とこの本を読んでみたくなりました。なせなら、悲しい時は胸がキュッとしたり、うれしい時は胸がワクワクしたりするからです。夏休みにおじいちゃんとおばあちゃんに会った時は、胸がウキウキしたけれど、おじいちゃんとおばあちゃんに会った時は、胸がウキウキしてなりました。ピアノが上手に引けた時は、あつたかくなるし、おいしい物を食べた時は、幸せな気持ちになりま。」「とこの本を読んでみたくなりました。



わたしは泣き虫なので、くやしう時やさやならをする時、怒られた時泣き虫や泣き虫です。」「とこの本を読んでみたくなりました。本当は泣き虫や泣き虫です。」「とこの本を読んでみたくなりました。

本の中で男の子が、「わんわんわんわん」といって、体中に力がわつた。」「とこの本を読んでみたくなりました。わたしは泣き虫なので、くやしう時やさやならをする時、怒られた時泣き虫や泣き虫です。」「とこの本を読んでみたくなりました。